

外国語科（英語コミュニケーションⅡ）学習指導案

日 時：令和6年9月6日（金）第5時限
場 所：原町高等学校 視聴覚室
クラス：普通科2年4組（38名）
授業者：教 諭
A L T

1 単元名 Unit 3 Living with Animals (Crossroads English Communication II 大修館)

2 単元の目標

ペットや動物園といった日常的な話題や社会的な話題（ペットを持つことの是非、動物園の存在に対する賛否）について立場の違いがあることを理解し、聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、ディベート活動において、賛成・反対の立場から自分の意見を理由とともに述べたり、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら反論したりすることができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、日常的な話題（ペットや動物園）や社会的な話題（ペットの殺処分の是非、ペットの飼育放棄、動物の福祉のあり方等）について扱っている。生き物である動物自体は身近であるが、事情や背景の違いを踏まえると、賛成・反対といった立場の相違が想定される話題である。立場の違う者の間での議論に慣れさせるとともに、論題を批判的に吟味し、客観的に分析し、かつ建設的な意見を出す力をつけさせることのできる教材である。

(2) 生徒観

授業におけるペア・グループ活動においては、常に主体的な態度で臨むなど、間違いを恐れずに会話を継続しようとする態度が醸成されている生徒が多数を占める集団である。CAN-DO リストにおける学習到達目標の「支援があれば、与えられた話題について意見や主張などを論理の構成や展開に配慮して話して伝え合うことができる（第2学年「話すこと [やり取り]」）」は概ね満足できる状況にあるものの、多様な語句・文を使ったり、論理性に注意して会話を続けたりすることにはまだ課題がある。

(3) 指導観

本単元では、立場の違う意見についてテキストを読んで理解し、賛成・反対それぞれの論点を整理し、批判的に吟味し、客観的に分析させた後、グループ（賛成、反対、ジャッジ）でディベートを行う。ディベートでは、相手の意見を踏まえた上で、自分の意見を論理的に述べる必要がある。これまでペア・グループ活動で、自分の意見を述べる言語活動等を行い、やり取りを継続する態度を育成してきたが、立論・質疑・反論を伴うディベート形式にはあまり慣れていないため、ディベートで用いられる語句や表現の事前指導も行う。また、ディベートにおいてジャッジを担当する際、論点について批判的に考え、客観的に分析することが要求されるため、ワークシート等を利用して事前指導を行い、論理性に注意しながら判断する力を育てる。

4 小中高連携の視点

話すことについては小学校や中学校においても重視されており、高校入学時において基本的な語句を使ってやり取りしようとする態度が身につけている生徒も多い。一方、高等学校において、相手の意見を踏まえて論理性に注意しながら自分の意見を述べる言語活動の充実が課題となっている。小中高で共通したやり取りの言語活動を帯活動やパフォーマンステストの中に組み入れ、段階に合わせた発展的内容に取り組みさせることで、目的、場面、状況等に応じて自分の意見を論理的に伝えることのできる力を育てたい。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・社会的な話題（動物の福祉）について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う技能を身に付けている。 	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、社会的な話題（動物の福祉）について、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、社会的な話題（動物の福祉）について、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全10時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	知	思	態															
1	<p>■ 単元の話題（猫シェルター）に対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。</p> <p>①猫シェルターに関するホームページを見て、その内容を要約し、個人的な体験・経験等をペアで伝え合う。</p> <p>②テキストで出てくる新出語句・表現を確認し、ペアで練習する。</p>	<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>																	
2	<p>■ 単元の話題（猫シェルター）の文章理解に必要な言語材料（関係副詞の非制限用法、無生物主語構文、倒置構文）を理解し、適切に用いることができる。</p> <p>①それぞれの言語材料を理解し、設問に答える。</p>				<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>														
3-4	<p>■ 単元の話題（猫シェルター）についての英文を読み、英語で要約する。</p> <p>①猫シェルターについての英文を読み、段落ごとに英語で要約する。</p> <p>②Comprehension Check / Making Questions</p>							<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>											
5	<p>■ 単元の話題（猫シェルター）についての英文を視覚材料やキーワードをもとに要約する。</p> <p>①写真とキーワードをもとに、多様な語句・表現を用いながら、ペアで Retelling 活動を行う。</p> <p>②多様な語句・表現を用いることができたか振り返り、再度ペアを変えて Retelling 活動を行い、より詳細に表現することができたか振り返る。</p>										<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>								
6	<p>■ 単元の話題（動物園の是非）に対する生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>①動物園についての個人の経験・体験について意見交換を行う。</p> <p>②文章を読む前に動物園の是非について考えさせる。</p> <p>③テキストで出てくる新出語句・表現を確認し、ペアで練習する。</p>													<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>					
7-9	<p>■ 単元の話題（動物園の是非）についての英文を読み、英語で要約する。</p> <p>①動物園の是非についての英文を読み、段落ごとに英語で要約する。</p> <p>②Comprehension Check / Making Questions</p>																<p>一斉に記録に残すことは毎時間行わない。ただし、ねらいに対して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>		

10 (本時)	<p>■ 社会的な話題（アニマルカフェの是非）について、聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら意見を述べたり、反論したりすることができる。</p> <p>①単元の話題に関連する論題（Japan Should Ban Animal Café.）について賛成・反対両方の立場の意見を全体で列挙し、論点を共有する。</p> <p>②賛成・反対・ジャッジで構成されるグループを作り、①で出された論点や理由、具体例等の情報を活用しながら、論理に矛盾や飛躍がないように注意して、ディベートで意見を述べたり、判定したりする。</p> <p>③グループ内で、ディベートでよかった点をフィードバックする。</p> <p>④賛成立論や反対立論、質疑等における内容及び表現について全体で共有する。</p> <p>⑤同じグループで別の役割を割り当て、再度ディベートを行う。</p> <p>⑥単元目標の達成状況を振り返り、次の課題を明らかにする。</p>	<p>一斉に記録に残すことは毎時間行う。生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。</p>			
後日	パフォーマンステスト		○	○	○

7 パフォーマンステスト

(1) 内容

社会的な話題（アニマルカフェ）について、与えられた情報を参考にしながら、相手の意見の要点に対して反論した上で、自分の意見を適切な理由や根拠とともに述べる。

(2) 準備する課題

配布用ワークシートと一人一台端末（タブレット等）を使用する。シートをテスト前に配布し、採点の基準を説明する。指示を口頭で伝え、リスニング音声を流す。生徒は一斉に課題に取り組む。

<ワークシート例>

Student ID 2 _ _ _ Name

DEBATE PROPOSITION: Japan should ban animal café.

Christian's opinion :

Your Opinion:

<Direction>

1. You will have a debate today. Christian sensei will play the affirmative side. You will be on the negative side. First, read the proposition on your sheet.
2. Next, you will listen to Christian sensei's argument.
3. You need to provide your opinion against the affirmative side. You will be given one minute (1'00") to prepare. You can use your worksheet.
4. Record your opinion within one minute and a half (1'30").
5. Now, listen!

(3) 採点基準

○「思考・判断・表現」についての2つの条件

条件1	相手（ALT）が挙げた3つの理由のうち2つ以上について述べている。
条件2	相手とは反対の意見を、適切な理由とともに述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none">・意見を伝え合うための語彙や表現を、ほぼ誤りなく使用している。・反対の意見を述べる表現が適切に用いられ、論理の展開に工夫が見られる。	2つの条件を満たした上で、意見を、論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに述べている。	2つの条件を満たした上で、意見を、論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに述べようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none">・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使用している。・反対の意見を述べる表現を用いている。	2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たそうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

8 本時のねらい (第 10 時)

アニマルカフェについて、聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら意見を述べたり、反論したりすることができる。

9 指導過程

段階	学習活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準【観点】(評価方法) ※◆の次にAの具体的な姿の例とCへの手立ても記す。
導入	1 Ice Break: Word Definition Game 単元で既出の単語について定義ゲームを行う。	10分	◇生徒の定義について、共通して見られた生徒の間違いなどについて全体で共有する。
展開	2 Debate Introduction (1) JTE からディベートの説明を聞く。 (2) イルカショーについての JTE と ALT によるディベートモデルを見る。 (3) ジャッジとして自分はどちらの議論を指示するか評価し、ペアで確認し合う。 3 Debate <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Japan Should Ban Animal Café.</div> (1) 論題についてブレインストーム 賛成と反対のそれぞれの論点を列挙する。 (2) Debate #1 ディベートグループごとに集まり、 賛成・反対・ジャッジの役割を決め、 ディベートを行う。 ①賛成側立論 1'30" 作戦タイム 30" ②反対側質疑 1'00" ③反対側立論 1'30" 作戦タイム 30" ④賛成側質疑 1'00" ⑤ジャッジ判定 1'00" (3) 相互評価タイム (4) 1 回目のディベートの改善点について 教師からの説明を聞く。 (5) Debate #2 同じグループで役割を変えてもう一度 ディベートを行う。 (6) 相互評価タイム	35分	◇ディベートのジャッジを行う際の注意点 について説明する (ワークシート)。 ◇単元に関連した話題についてスライドを 用いて紹介する。 ◇Google Classroom に資料を提示し、生徒 が論点を整理できるようにする。 ◇全体でブレインストーミングの意見を 共有し、英語の語句・表現を確認する。 ◇3人で1つのグループにする。 自分の意見に関わらず、じゃんけんで 勝った順に A, B, C とし、A 賛成、 B 反対、C ジャッジを割り当てる。 ◇総合評価タイムでは、ディベートの内容 を振り返りグループで感想を述べ合う。 ◇1 回目のディベートの改善点について、 全体で共有する中間指導を行い、生徒に 自分たちの議論をメタ認知させる。 ◇Debate #2 では、A ジャッジ、B 賛成、 C 反対を割り当てる。(最低 1 回は賛成 か反対の立場を経験させる。)
まとめ	4 Reflection ディベートにおいて目標が達成できたか 振り返る。	5分	

資料	一人一台端末、ディベートワークシート、Judge Sheet、Projector、Timer
----	--